

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	鍼灸理論2
科目基礎情報					
開設学科	鍼灸科	コース名		開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	講義		
教科書/教材	『はりきゅう理論』				
担当教員情報					
担当教員	宮本 陽平		実務経験の有無・職種	有・鍼灸師	
学習目的					
鍼灸刺激が生体にどのように作用するのかを学ぶ。東洋医学的な考えではなく、現代医学の観点から鍼灸による刺激を分析することで、鍼灸刺激により起こりうる種々の生体反応を理解する。鍼灸刺激の受容と伝導、神経学的反射機構、内因性鎮痛機構などを学び、鍼灸施術の治効機序、鍼灸で期待できる効果を考え、臨床現場での足がかりとなる知識を養うことがねらいである。また、学術的な見地に触れることで、学会への参加や論文抄読への意欲を養うことも目指す。					
到達目標					
この科目では鍼灸施術の治効機序を理解することをねらいとする。鍼灸刺激がどのような意味をもった刺激であるのかを考え感覚の受容と伝導を理解すること、神経学的反射を理解し鍼灸刺激によって起こりうる生体反応を理解すること、内因性鎮痛機構を理解することが目標である。また、これら学習する内容を、将来的に一般の患者や、他の医療職種の従事者に対して、鍼灸施術の効果・効能を説明できるようにすることを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、講義を通じて鍼灸の治効機序の理解を深めていく。感覚受容器、伝導神経線維、脊髄内伝導路を学び鍼灸刺激が生体にとってどんな意味のある刺激であるのかを考え、鍼灸刺激によって起こりうる反射を中心とした生体反応を学んでいく。また、生体内に存在する内因性鎮痛機構を学び、鍼刺激によって生じる鎮痛効果の機序を理解することを目指す。将来の臨床の場でこれらの機序を念頭に置き、目の前の患者に対してどんな効果を求めて施術をするのか考える習慣をつけることを目指していく。				
注意点	授業日数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。講義時間に無連絡で20分以上遅れた場合、受講はできるが出席の扱いをしない。明確な理由が無い早退は出席したとは認めない場合がある。 課題は、本科の規則に従った形式で提出する。特定の指示が有る場合を除いて、手書きでの作成を原則とする。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	100%	期末試験		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 （口頭・実技）	0%			
	平常点	0%			
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	感覚の受容と伝導		授業の進め方、感覚の一般を理解する		
2回	感覚の受容と伝導		体性感覚を理解する		
3回	感覚の受容と伝導		触圧覚、温度覚の受容と伝導を理解する		
4回	感覚の受容と伝導		痛覚の受容と伝導を理解する		
5回	鍼灸刺激と反射		痛覚の受容と伝導を理解する 関連痛を理解する		
6回	鍼灸刺激と反射		反射一般について理解する		
7回	鍼灸刺激と反射		体性体性反射を理解する		
8回	鍼灸刺激と反射		自律神経一般を理解する		
9回	鍼灸刺激と反射		自律神経反射を理解する		
10回	鍼灸刺激と反射		軸索反射を理解する		
11回	鍼鎮痛		ゲートコントロール説を理解する		
12回	鍼鎮痛		下行性抑制と鍼鎮痛を理解する		
13回	鍼鎮痛		下行性抑制と鍼鎮痛を理解する		
14回	鍼鎮痛		下行性抑制と鍼鎮痛を理解する		
15回	復習		まとめ		